

# ストーブ火災を防ぐポイント

- 外出時や就寝時は必ず消す。
- 周囲に布団やカーテン、洗濯物などの燃えやすいものを置かない。
- スプレー缶は近づけない。
- 給油は必ず消してから行う。

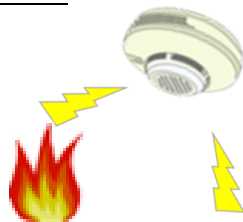


# ストーブ火災に備えて

住宅用火災警報器を全ての居室・台所・階段に設置しましょう

## 住宅用火災警報器の設置により火災の拡大を防いだ事例

バスマットを電気ストーブにかけていたところ、何らかの原因でストーブのスイッチが入り、火災となりました。住宅用火災警報器の鳴動により火災に気づき、119番通報と消火器による初期消火を実施し、火災の拡大を防ぎました。



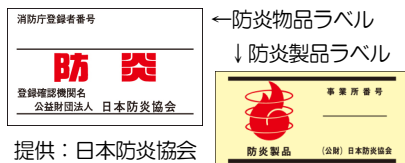
カーテンやじゅうたん、寝具類など住宅内の布製品は防災品にしましょう

## 防災品の使用により延焼拡大を防げたかもしれない事例

ダイニングテーブルの下で使用していた電気ストーブの電源をつけたまま外出し、付近に置いていた木製椅子の脚及び座布団等の可燃物が電気ストーブに接触して出火しました。



## 防災品ラベルは2種類あります



※ ラベルには様々な様式があります。

防災品は、火が接触しても容易に着火せず、着火しても延焼拡大を停止する自己消火性を備えた品物です。

## 問合せ先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4196

令和5年10月発行



# STOP!

STOP! 住宅防火シリーズ③ 火災から大切な命を守ろう

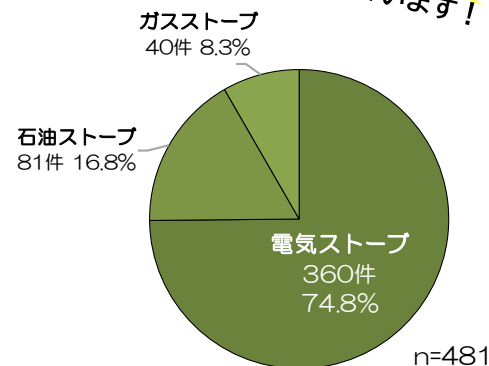
## あらゆる器具で発生するストーブ火災

- 過去5年間で東京消防庁管内においてストーブを出火原因とする火災が481件発生しました。
- 電気ストーブによる火災が74.8%で、非常に高い割合となっています。



電気ストーブに布団が接触し焼損した状況

火を使わない電気ストーブで実は一番多くの火災が発生しています!



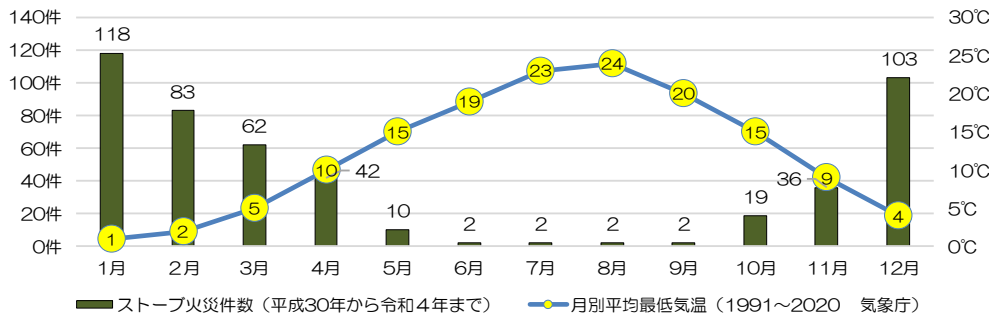
出火原因ストーブの内訳 (平成30年～令和4年 住宅火災)

# ストーブ火災

東京消防庁

# 寒い時期を中心に発生！

■ ストープ火災は、平均最低気温15度となる10月の秋頃から増え始め、4月の春先にかけての時期を中心に発生しており、注意が必要です。

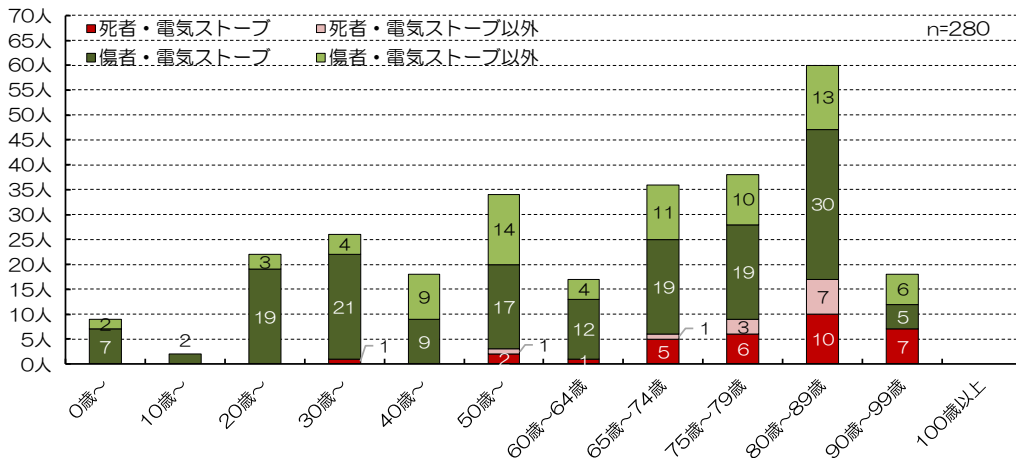


月別のストーブ火災件数 (平成30年~令和4年 住宅火災)

# 死傷者の発生状況(過去5年)

■ ストープ火災による死傷者は計280人(死者44人、傷者236人)で、このうち7割の192人は電気ストーブが出火原因となっています。

■ ストープ火災による死者は44人で、このうち32人は電気ストーブが出火原因となっています。また、死者44名のうち39名が65歳以上の高齢者です。

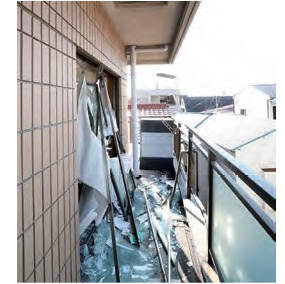
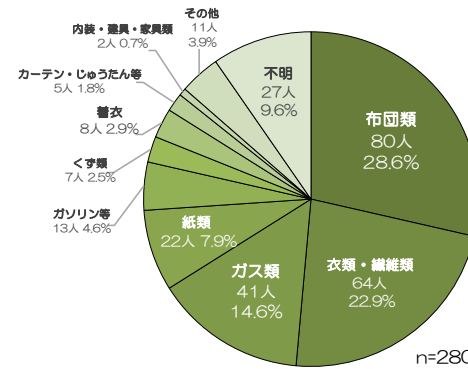


年齢別のストーブ火災による死傷者数 (平成30年~令和4年 住宅火災)

# ストーブの周りに物を置かない

■ 死傷者280人のうち、布団類や衣類・繊維類の可燃物に着火した件数は144件で、51.5%となっています。

■ ガス類(スプレー缶等)が2番目に多くなっています。



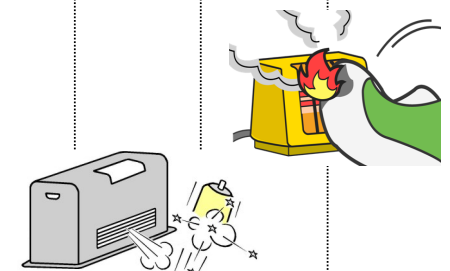
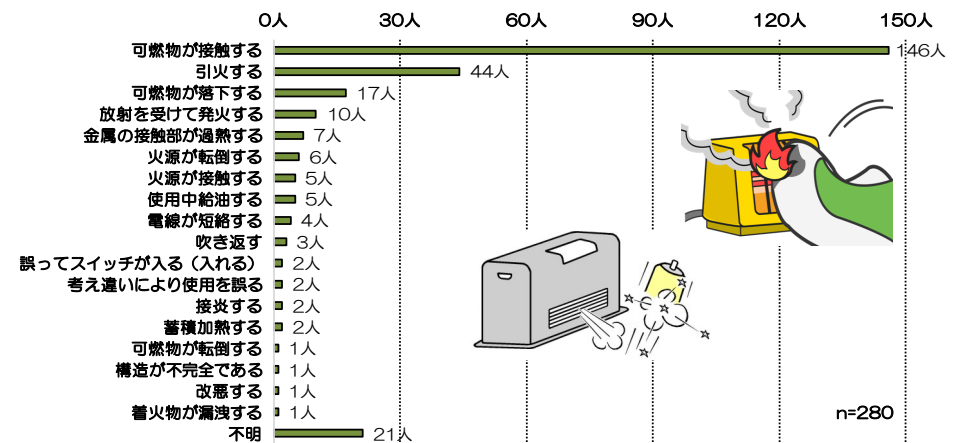
室内でストーブが原因となりスプレー缶内のガスに引火し爆発した火災 (屋外バルコニーの様子)

着火物別のストーブ火災 (平成30年~令和4年 住宅火災)

**スプレー缶廃棄時の火災も発生しています！**

■ 可燃物とストーブが接触することや、ストーブ付近のスプレー缶等が高温になって破裂し、漏れたガス類へ引火し爆発することによって、火災が発生しています。

スプレー缶を捨てる時は穴をあけたりせず、必ず最後まで使い切ってから自治体の廃棄方法に従って捨てましょう。



出火経過別のストーブ火災件数 (平成30年~令和4年 住宅火災)